

# ともに歩む

令和6年9月発行  
 発行：内桶克之  
 連絡先：〒309-1706  
 笠間市鴻巣 593  
 Tel：0296-77-2524  
 Mob:090-1811-0098  
 Fax：0296-77-2524

## 皆さん、こんにちは、内桶克之です。

ともに歩む第22号で常任委員会の審議区分について記載しましたが、令和6年4月から常任委員会の構成を見直し、総務産業委員会が**総務企画委員会**に、建設土木委員会が**建設産業委員会**に名称及び担当区分が変更になりました。このことで産業経済部と農業委員会は**建設産業委員会**の所管となりました。

※令和6年度に新設された「こども部」は教育福祉委員会の所管  
 さらに議会基本条例の推進項目が議会運営委員会で審議され、「議員定数・議員報酬・政務活動費等」について調査研究を行うため、3月15日に「**議員定数等調査特別委員会**」の設置議案が全会一致で可決、設置されました。委員定数22名(全議員)で、議員定数、議員報酬、政務活動費、委員会の体制などの審議を行います。

市民の皆さんで行政や身近なことでご相談がありましたら、ご相談ください。調査をしたうえで答えさせていただきます。



第10回プラチナ・ギルドアワード受賞  
 大坪桂氏の功績を讃えた祝賀会 民泊関係の皆さんと

## 笠間市の令和6年度当初予算

一般会計合計 340億6,000万円 (令和5年度332億7,000万円) 2.4%増

特別会計・企業会計の令和6年度会計別予算の状況

(千円)

会計名		予算額	会計名		予算額
特別会計	国民健康保険特別会計	7,553,000	企業会計	病院事業会計	1,094,216
	後期高齢者医療特別会計	1,214,000		水道事業会計	3,392,023
	介護保険特別会計	7,881,000		工業用水道事業会計	29,579
	介護サービス事業特別会計	21,000		下水道事業特別会計	4,147,119
				一般会計も含めた予算合計	59,391,937

【参考】令和5年度当初予算合計 60,013,909千円

## 清掃施設整備等特別委員会

令和5年6月に設置され、清掃施設の建設工事や周辺地域における生活環境向上施設等の整備についてこれまで23回の委員会を開催しました。(令和6年8月現在) 審議内容は

- ① 地元との協議内容(現存施設設置時の協定書の内容等)・地元還元策
- ② 余熱利用施設(余熱利用施設利用者の声など)
- ③ PFI等事業導入可能性調査の内容(市場調査・市場調査・VFMの検討)
- ④ ごみ処理体制(バイオガス発電、高効率ボイラー発電、ボイラー発電)
- ⑤ バイオガス発電施設建設の財源負担(メリット・デメリット)
- ⑥ 新清掃施設整備計画(案)「整備基本計画及びPFI等導入可能性調査」内容など

※PFI(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)とは、公共施設的设计・建築・維持管理・運営を民間の資金や経営能力、技術を活用して行う事業手法。  
 ※VFM(バリュー・フォー・マネー)とは、支払金額に対して最も価値の高いサービスを提供する考え方で、事業選定や評価に用いる。

## 一般質問は、下記の項目を質問しました。

### 令和6年第1回定例会(3月)一般質問

- ① 教職員等の適正配置と業務改善について
- ② 有機農業の取り組みについて
- ③ 職場におけるハラスメント防止と人事評価制度について

### 令和6年第2回定例会(6月)一般質問

- ① 笠間市消防団の組織体制と今後のあり方について
- ② 女性・若者の活躍促進について
- ③ 笠間市の観光誘客の課題について



かさま周遊観光バス

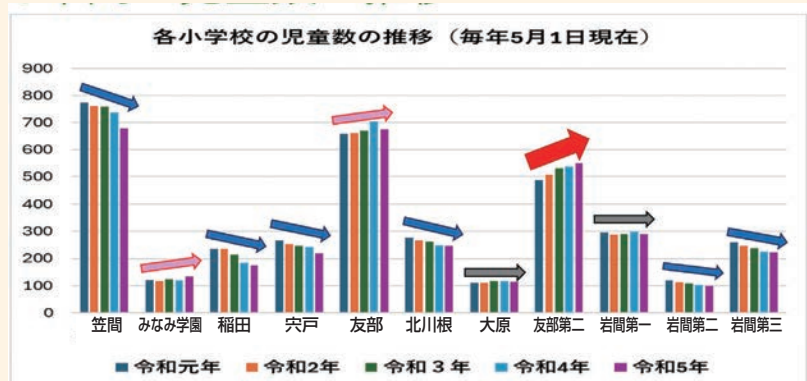
# — 令和6年第1回定例会一般質問（令和6年3月） —

1

## 教職員等の適正配置と業務（事務）改善

笠間市には小学校10校、中学校5校、義務教育学校1校、合わせて16校の市立の学校があり、児童・生徒数は毎年減少傾向にある。しかし、一人ひとりの児童や生徒に寄り添う教育のニーズは増してきている。児童生徒の多様化や教育ニーズへの対応などにより、教職員等の適正配置による体制づくりに加え、教職員の既存業務や事務の改善が必要となってきている。

### 5年間の児童数の推移



【小学校の児童数 令和元年から5年までの推移の説明】

全体的に減少傾向（少子化）が分かる。しかし、みなみ学園の前期課程、友部小学校が微増。友部第二小学校が増加傾向にある。

### 問 学校規模と適正な教職員の配置は

答 教育長 学級数の定数と指導方法の工夫改善や支援体制を必要とする子どものための加配定数がある。茨城県は、小学5年まで児童35人に担任1人。6年生、中学校、義務教育学校後期課程は児童生徒40人で担任1人。令和5年度から、教職員不足の小さな学校に定数外の教職員2名を市で採用している。

### 問 各学校には講師の先生がいる。講師と適正な教職員の定数との関係はどうか。

答 教育長 全国的に教職員が少ない状況があって、講師を定数内で採用する講師と、産休、育休補充の講師というかたちの2種類に分かれているが、代替講師は定数内での形に配属されている。

### 問 令和6年の予算に「寄り添う教育・指導の強化」として、児童生徒の多様な教育的ニーズに対応するため、特別支援教育と不登校への対応が上げられている。特別支援教育支援配置事業が市単独で108,347千円が計上されている。児童の介助や学習支援はどのように行っていくのか。教職員配置と関係はあるのか。

答 教育長 特別支援教育支援員の配置は、各市町村単独予算で配置をしている。支援員の役割は、教室の中で支援を必要とする子どもたちに付いている状況で、例えば教室を飛び出してしまうような状況の時に、担任がそれを面倒見ると授業がストップしてしまうということで、面倒を見ていただく支援員を市内に41名採用している。来年度も同じ41名だが、本年度までは午後3時頃で終わっていたものを1時間延長する。また、始業時間も1時間程度延長して支援する。その分の予算が増額となった。

### 問 校内フリースクール事業が県補助で13,643千円が計上されている。今年度は友部中学校で校内フリースクールを始めているが、市内中学校・義務教育学校（後期課程）の6校で開設することだが、教職員の配置と関係はあるのか。

答 教育長 校内フリースクールの配置は、本年度は友部中学校の「つばさ」というもので対応している。今まで市内の学校では、不登校ごみの子どもたちを別教室で授業を行うシステムをやっていた。それは定数内の先生方でやっていたので、空き時間のときにしかできないという状況があった。それを本年度、教育支援室の先生を、友部中学校に毎日配置をして校内フリースクールを開設し、不登校ごみの子どもたちを指導するというシステムなので、教員定数とは全く別の形で配置している。来年度は1人、常時配置の考え方で全校配置する。

### 問 市内の小中学校の栄養教諭と給食センターの学校栄養職員の配置の現状は

答 教育長 教員と児童生徒を合わせた調理対象数で、県教委が市に小中校で6名配置。センター方式の基準である1,500人以上、以下に照らして、給食センターは笠間2名、岩間1名、単独校方式の友部地区は3名配属。

### 問 給食センターは1,500名を基準として1名配置。1,500から6,000名で2名を配置。学校は550人以上で1人の配置で、友部第二小学校が550人に達しているのに配置されていない。友部第二小学校に栄養教諭が配置されない理由は。

答 教育長 配置する当時、友部第二小学校が550人の基準に満たなかったこともあるが、現在配属されている北川根小学校に重度のアレルギー体質の児童が入学してくる経緯から教育委員会等で協議し配属した。今後、配属の見直しも考えられるが、大きな学校は、職員数も多いので調理の発注、献立会議など、小さな学校より先生方に負担は多いけれども、話しやすい体制ということで、現状を維持している状況。



## 問 教職員の既存業務と事務の改善はされているのか

答 教育長 校務支援システム導入、学校閉庁日の設定、留守番電話の運用、部活動指導員の配置、日誌等の廃止等を実施している。

◆児童・生徒の教育環境の充実は、学校内職場環境の改善し、教職員の負担軽減がされることで、質の高い教育の提供ができるものだと思う。今後ともその点を踏まえ、教職員の業務改善の推進を進めてほしい。

## ② 有機農業の取組とオーガニック給食

この質問は、昨年（令和5年）の第1回定例会で質問したが、その後の進捗状況を確認する。国では持続可能な農業を実現するための、環境負荷を軽減した取り組み「みどりの食料システム戦略」では、オーガニックビレッジ宣言の推進、人材育成や需要喚起等を通じた現場の取組の推進、有機農産物の販路拡大、新規需要開拓の推進などの施策を推進している。笠間市では有機農業の推進として、「オーガニック宣言」を目指し、オーガニック給食の導入を行っている。

### 問 現在までの取組状況は

答 産業経済部長 環境保全型農業直接支払交付金制度を活用し、環境負荷を軽減した農業を推進。令和5年度はオーガニック給食の先進地へ研修や、岩間地区の小中学校給食に有機野菜を提供。新たに北川根小学校をモデル校に有機米と有機野菜の提供開始。地域交流センターいわまで、各地の有機米の栽培技術の指導役で知られるNPO法人の講師による水稻の有機栽培技術講習会を開催。令和6年2月22日に笠間市環境農業推進協議会を設立した。

### 問 体制づくりは進んだのか

答 産業経済部長 生産者の構成員12名と笠間市農業委員会、農業公社、茨城県県央農林事務所、笠間地域農業改良普及センター、おいしい給食推進室、農政課を関係機関とした「笠間市環境農業推進協議会」を主体に取り組む。農林水産省のオーガニックビジネス拡大支援事業を受託し、全国各地の有機農業の推進と課題解決に関わり実績のあるコンサルティング事業者と連携し事業を進めている。

### 問 今後はどのような取組を行うのか

答 産業経済部長 市内小中学校のオーガニック給食導入を目標に、米飯のオーガニック化を優先。令和6年度、農産物の生産の取組中心に水稻栽培の技術講習会を複数開催。2年目以降、多くの生産者が環境負荷を軽減した農業に参画し、農産物が付加価値の高い適正価格で取引されるため販路の出口戦略を検討。有機農業実施計画は令和6年12月をめどに策定、その後オーガニックビレッジ宣言を行い、環境負荷を軽減した農業の産地づくりに取り組みたい。

### 問 オーガニック給食の取組は

答 教育部長 今年度、北川根小学校をモデル校に特別栽培米と完全無農薬米を提供。有機野菜のコマツナ、ホウレンソウを年間通じ提供。令和6年度から、モデル校に宍戸小学校を加え2校に拡大。北川根小は全て、宍戸小は約半分の米飯を完全無農薬米で提供予定。令和7年度以降は提供量を段階的に増やし、令和10年度は主食の米飯は全校100%有機米、副菜はより多くの有機野菜の提供を目指す。

◆常陸大宮市は令和5年11月に県内初めてオーガニックビレッジ宣言をした。そのメンバーに常陸農業協同組合が設立したJA常陸アグリサポートが、有機農産物と学校給食のつなぎ役として、有機農産物の流通・消費の拡大を目的に参加している。笠間市の場合、JAの参加は難しいとのことなので、生産者の共同体となる中間組織を設立してつなぎ役を担うなどの検討が必要。

## ③ 職場におけるハラスメント防止と人事評価制度

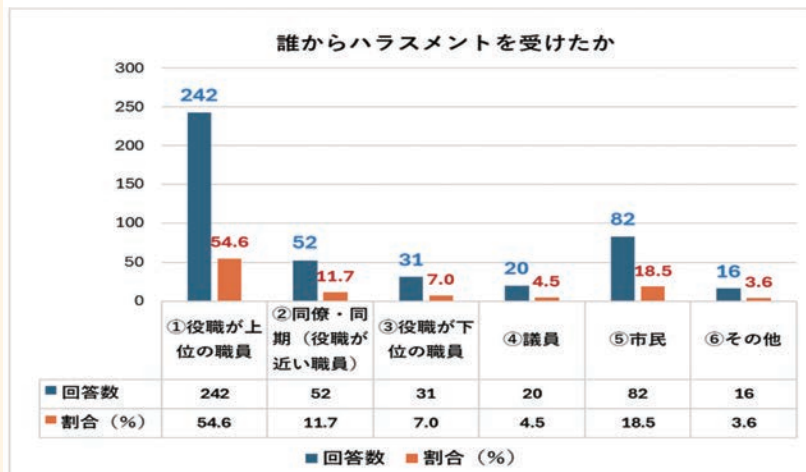
### 問 職場におけるハラスメント防止対策は

答 市長公室長 ハラスメントと感じた職員の割合は約4割。

調査結果の共有及び注意喚起。相談窓口の設置。研修の開催の三つの防止対策を講ずる。

◆議会においても「ハラスメント防止」のために、ガイドラインや条例の必要性を感じるので、議会としてどのように取り組んでいくか議論したい。

令和5年11月実施したの笠間市役所職場におけるハラスメント調査



## 問 現在の人事評価制度は

答 市長公室長 市で定める人事評価制度マニュアルに基づき、職種や職位に応じ、全職員を対象に担当業務の達成度を見る実績、日常の職務遂行状況を見る能力、職務に対する意欲を見る態度の三つの評価項目と面接で、設定した目標の達成状況シート、日常の勤務状況を記録した観察指導シートで評価。

## 問 会計年度任用職員の人事評価は

答 市長公室長 令和6年度から勤勉手当が支給される会計年度任用職員にも業務や能力を評価する人事評価を行う。正職員と同じ内容ではないが、次年度継続雇用の評価だけでなく、面談や業務の目標設定、達成状況等も評価したい。

◆職員の人材育成については笠間市職員人材育成方針に則り、実施している。合併して18年が経過し、社会の変化とともに職員を取り巻く環境も変化している。職場におけるハラスメントの防止対策も良好な職場を確保する上では必要不可欠。

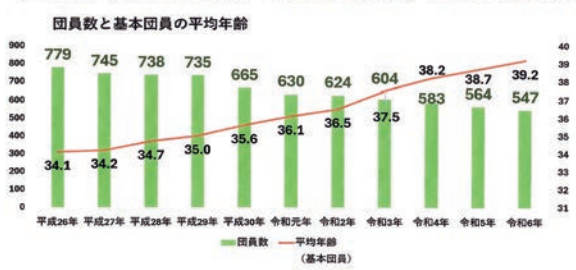
# — 令和6年第2回定例会一般質問（令和6年6月） —

## 1 笠間消防団の組織体制と今後の在り方

笠間市消防団は、平成18年3月の市町合併に伴い、3地区による連合消防団で発足し、地区ごとの支団制を経て平成23年4月から現体制に移行した。平成27年6月には消防団審議会を設置し、審議会の答申を基に消防団組織等の整備計画を策定し、平成29年度から平成30年度にかけて分団の統合（46分団から43分団そして33分団へ）や団員定数（822名から現在の720名）の変更をして組織再編した。5月議会全員協議会で消防団審議会を設置して、消防団のあり方や消防施設の整備、さらには消防団員の負担軽減などについて審議し諮問する旨の報告があった。

### 笠間市消防団員数の推移

毎年4月1日現在  
R6 消防団員数547人（基本団員533人・女性団員14人）  
平均年齢（基本団員39.2歳・女性団員48.7歳）※女性割合2.6%



## 問 現在の消防団の課題について

答 消防長 課題は大きく四つ。①消防団員の減少と高齢化。②平日昼間に出勤可能な団員の減少。③消防団詰所及び車両の更新計画。④団員の負担軽減。

## 問 今後の消防団の在り方について

答 消防長 消防団は、将来にわたり地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在でありながら様々な課題に直面している。本年5月に消防団審議会を設置。常備消防と消防団の役割を認識し、人口減少社会の中でも持続可能な消防団を維持するため、機能別消防団の全面的な導入や女性消防団の活躍、訓練方法や行事の見直しによる負担軽減について検討を開始。答申を踏まえ必要な対策を講じていく。

## 問 機能別消防団について、地域限定で例えば、工業団地に勤務している方で消防団を結成するとか。学生消防団の検討をしてもよいと思うが。

答 消防長 現在、学生消防団の設置は考えていない。国ではいろいろな機能別消防団を採用していく方向性があるので、今後、調査研究していく。

## 問 審議会での審議途中ですが、山口市長に今後の消防団についての考えは

答 山口市長 若い人の人口減少時代にあって、消防団員そのものを女性や学生から集めるのは難しいと思っている。それでも若い人たちが入団する消防団にするためには、今ある消防団の役割を変える議論が必要。これは団員数も含めて、一番負担になっているのは、操法大会での半年以上にも及ぶ訓練である。県消防協会には、訓練や操法大会そのものも、廃止も含めて見直しを要望している。

さらに消防団の方向性としては縮小していく傾向になると思う。そうすると常備消防を強靱化することになるが、現在5年計画の3年目となっている。審議会の議論を経て、消防団の方向性が決まった中で、常備消防をどのように機能強化していくか改めて議論をしていきたいと思う。

今回の審議会で方向性を出していただき、それを何年で実施するかは別として、次の審議は10年後になると思う。今回、思い切った内容で消防団の在り方をしっかり議論していただき、議会とも議論を深めて、方向性をしっかり出していきたい。

### 全国の機能別消防団員数と導入市町村

毎年4月1日現在  
R5 機能別消防団員 34,690人（前年比+2,572人 +8.0%）



## 2 女性、若者活躍促進

持続性の高いまちづくりを進めるのは、女性や若者が定着し、多様な産業面での活躍やまちづくりに参画する機会の創出が重要である。笠間市では昨年度、地域経済と社会の持続・成長に向けて挑戦する女性を応援する「かさまち娘応援プロジェクト」を、さらに今年度は市内企業等とも連携しながら強化を図る「女性・若者活躍促進プロジェクト」を重点プロジェクトとしている。



## 問 女性、若者が活躍するイメージはどのようなものか

**答 総務部長** 笠間市では進学や就職を理由に女性や若者が市外へ流出するなど、人口構成などに影響を与えている。市内には、一度学業や就業で市外に出たけれども、例えば陶芸をやるためにUターンした男性や、自然豊かな里山でカフェを始めた若い夫婦、地元でにぎわいの創出を図るために美容室を開業した男性、さらにはスポーツの分野では、旧東中学校を利用し、複合施設を開業したプロ野球チーム茨城アストロプラネッツの選手など、女性、若者の移住定住が増えている。笠間市のものでづくりや芸術、スポーツ、医療、福祉などで活躍できるという強みを生かして、女性や若者が、笠間市内で希望をかなえて、自分らしく働き、暮らしていくことが、女性、若者の活躍であり、ひいては地域の活性化や経済成長を促進していくものというようなイメージをしている。

## 問 人材育成、伴走型の支援強化事業の内容は

**答 総務部長** 女性が自分らしく働き続けるための創業や資格取得支援のほか、在宅育児応援事業、病児保育事業等子育て支援も含めたトータルサポートとして、幅広い行政サービスを案内する女性活躍総合サポートセンターを4月に設置。女性・若者インターンモデル事業では、女性や若者の地元企業での就業定着を目指し、市内企業や教育機関と連携し、高校生の市内企業等へのインターンから開始し、大学生に拡大を図っていく。地域活躍人材育成事業では、市内企業等で活躍できる事業責任者や起業家の育成を目指し、経営企画や人材マネジメント等、必要なスキルを学ぶ実務型の人材育成講座を実施する。

**答 政策企画部長** 事業責任者は一連の業務を学ぶもので、座学研修から実地での飲食店経営まで一連で行う事業講座を予定。

## 3 笠間市の観光誘客の課題

笠間市は観光誘客力の強化を図るため、大規模なイベントへの支援や観光施設の整備を行っている。また、台湾を中心としたインバウンド誘客の促進にも力を入れている。

## 問 インバウンド対策としての英語、中国語の表示とピクトグラムの整備は

**答 産業経済部長** 英文、中国語の表記は、QRコードを読み込むことで15言語に対応することができる多言語案内看板を、道の駅やムラサキパーク等12か所に設置。内容も最新の施設情報に更新し、施設周辺の周遊コースを表示させる等充実させていく。ピクトグラムは、施設ごとに独自に表示されているが、今後施設の改修等に合わせ、外国人観光客にも一目で理解できるようJIS規格に沿って必要に応じ整備していく。

## 問 道の駅かさまのゲートウェイの役割強化を

**答 産業経済部長** これまでデジタルサイネージでの情報発信や施設を利用した各イベントの実施、笠間観光コンシェルジュが添乗して魅力のPRを行う観光周遊ツアーの拠点としての取組を実施。現在民間事業者に業務を委託し、観光情報の案内方法等の現状分析や観光客が楽しめる魅力的なメニューの洗い出しを行っており、ゲートウェイの役割強化を図っていく。

## 問 東京からの高速バス「関東やきものライナー」の運行について

**答 政策企画部長** 益子駅から秋葉原駅の間を運行しており、平日は秋葉原駅までの上りが午前中2便、午後秋葉原からの下りが午後2便で、土日祝日はそれぞれ1便増の上下3便ずつの運行となっている。令和5年度は、1便当たりで13.6人の方が利用。コロナ禍前の平成30年度は1便当たり20.3名。今年度4月のみの状況は、1便当たり17.3名で、徐々に利用者が戻りつつあるが、この路線だけでは民間としての事業ベースには乗っていないということだが、運行継続は願っている。

## 問 以前は、秋葉原駅発8時があり、道の駅到着10時の便があった。観光誘客を考えれば、東京から朝の高速バスが重要だと思いが復活できないのですか

**答 政策企画部長** 平成25年4月の関東やきものライナー運行当初は午前8時の便があり、特に土日の一定の利用者があった。今現在、毎月の運行状況の報告などを受けながら、運行事業者とは意見や要望などを行い可能性の検討はしている。しかし、テーマパークとか、そういう確実に利用が見込まれるようなコンテンツがない中で、民間事業として運行することは非常に困難というのが今までの状況。さらに働き方改革関連法の施行を受け、乗務員の確保、労働条件の観点から、行政が費用を負担するとしても、運行というものは難しい状況にある。観光誘客に効果的な交通体系については、今後も協議、検討をいく。

## 問 観光周遊バスの運行時間と利用状況は

**答 政策企画部長** 友部駅を出発して日動美術館等、おおむね1時間程度かけて友部駅に戻るという形式で運行。若干、変則的な部分はあるが、1日6便程度運行している。令和5年度の利用者は、延べ2万7,119名で、そのうち土日祝日が1万3,596名というような利用の状況。

◆現在1台のバスで約1時間の周遊コースを運行している。バス2台を使うと30分おきに運行できることになる。運転者確保や費用の面で課題はあるが、2台で運行することを検討してほしい。特に秋の季節（笠間の栗）や菊まつり期間の土日・祝日の増発の検討が必要。



## これまでの活動（3月～8月）



3月 議員インターンシップの受け入れ  
議会傍聴後学生と



3月 かさま未来会派報告会  
安見議員、坂本議員と



4月 友部ロータリークラブ  
ボランティア褒賞式



4月 常磐大学での講義  
「持続可能なまちづくりと行政・議会」



5月 陶炎祭 陶芸家 山口由美さんと



5月 坂東市の関口衛  
(元県立高校校長) 夫妻と



5月 山口市長、大関議長と友好都市  
の北海道遠軽市で



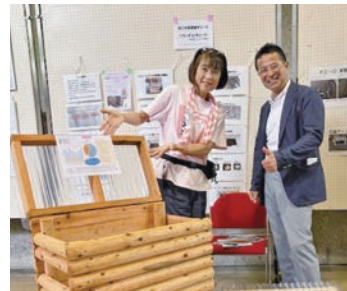
5月 台湾の高校生4人が民泊



5月 BMW日本ゴルフツアー選手権  
大会森ビルカップを控えた道路  
ごみ拾い



6月 スポーツ&フードフェス会場で  
ドッジボールをやっていた若者と



6月 那珂市の環境フェスティバルで  
実行委員の大家京子さんと



6月 プロ野球BCリーグ  
茨城アストロプラネッツの選手と



7月 筑波山ジオパーク推進協議会  
石岡市での研修



8月 衆議院議長公邸で  
額賀福志郎議長と



8月 茨城市町村議員有志の会  
の皆さんと(小美玉市研修)



8月 道路ボランティア団体茨城県知  
事表彰式

うち おけ かつ ゆき  
**内桶克之**  
プロフィール

人生の原点！  
大学時代の毎朝仕事

生年月日

昭和35年（1960年）10月1日生まれ（63歳）

学歴

法政大学大学院修了（政策学修士）、日本大学農獣医学部卒業  
※勤労学生：朝3時に起床し、新聞・雑誌を私鉄の駅の売店に運ぶ  
笠間市議会副議長、議会運営委員会委員、建設産業委員会委員  
友部ロータリークラブ社会奉仕委員長

現在

ともべ幼稚園理事、NPO法人グラウンドワーク笠間顧問  
NPO法人ららら音楽アトリ工理事、(株)セビア関東営業所顧問  
BMW日本ゴルフツアー選手権森ビルカップ大会役員  
笠間市ドッジボール協会理事長、茨城県ドッジボール協会顧問  
ウォーキング&ごみ拾い、スポーツ観戦、笠間焼を使おう贈ろう運動  
「他人と過去は変えられないが自分と未来は変えられる」

趣味  
信条



内桶克之  
オフィシャルHP



内桶克之  
YouTube

HP <http://uchioke.com>

f [katsuyuki.uchioke](https://www.facebook.com/katsuyuki.uchioke)

o [okeok19601001](https://www.instagram.com/okeok19601001)



水農同窓会 支部長・  
代議委員会でのあいさつ